

推薦・日本映画ペンクラブ／優秀映画鑑賞会／中央青少年団体連絡協議会／日本青年団協議会

# 渡り川

- 1994年製作
- 16mm映画、カラー
- 上映時間90分

〔スタッフ〕 監督・プロデューサー 森康行／監督 撮影 金徳哲／録音 古賀陽一／編集 吉田栄子  
 音楽 原正美／撮影助手 鬼頭信行／監督助手 古賀美岐／スチール 奈路広  
 ナレーター 井川比佐志／歌 李政美／伴奏 小室等

## 解説

自由民権運動の伝統を受け継ぐ土佐。'93年11月、「幡多高校生セミナー」は坂本龍馬に続く人材の奨励・育成を目指して各分野で活躍する県内の若者たちに贈られる「第8回龍馬賞」を受賞した。「生徒たちの自主的な活躍で、学校の授業でおろそかにされがち近代史の掘り起こしに努めたこと」を選考にあたった新聞・テレビの報道責任者



でつくる「高知報道11社会」が評価した。映画は、'92年3月から20ヶ月の歳月のなかで、幡多ゼミの高校生たちが成長する姿、土を耕す父母、戦争体験を語る祖父母を通

じて家族の営みを描く。カメラは四万十川の豊かで美しい四季の自然、厳しい風土を余すところなく撮らえる。

戦後50年を迎えようとする今、アジアの人々との真の理解と友好、共生の時代が求められている。「渡り川」は、「ビキニの海は忘れない」の森康行監督と「潤の街」の撮影監督金徳哲、2人の共同監督により、国境を越え、時代を超え、人々の新たな出会いを希求しながらつくられた映画である。

## あらすじ

「日本最後の清流」といわれる四万十川。その中流域にある西土佐村の鉄道（旧）江川崎線、大正町にある戦時中四国随一の津賀ダムなど、多くの朝鮮人によって築かれたことを高校生たちは知る。

「なぜ、幡多地域に多くの朝鮮人がいたのだろう！」当時を知る人たちに会って話を聞きとる中で、朝鮮から強制連行された人たちがいたことがわかってきた。

'92年1月、NHK『青春メッセージ』で“共に生きる明日を築くため「お会いしませんか」と呼びかけ、最優秀賞を受賞した神

戸朝鮮高校の金有美に手紙を出し、夏、四万十川に招く。

若者たちは語り合い歌い交流が始まった。そして、お互いにホームステイをしながら友情を育くむ。

'93年夏、若者たちは韓国へと旅立ち日本軍の慰安婦にさせられた金学順さんに会う。

「あなたたちと話しあえてうれしい。若いあなたたちは、歴史の事実を正しく伝えて下さい」と語りかける金さんの言葉に若者たちは胸がつまり、戦争が人間に残した傷跡の深さを知る。

ソウルの大学路、小雨の降る中。両国の若者たちは肩をくみ「朝露」を力いっぱい歌った。国境を越え、友となった若者が抱き合い、涙はほほをぬらした。

過去から現在、未来へ、日本と韓国・朝鮮（KOREA）の人々が、真の友好を結ぶには、自分は今何ができるのか。

アジアの人々と共に生きる社会をつくるには自分たちが、今しなければならぬことは何か、考え、歩みはじめた。



証言する金学順さん（右）



## 『渡り川』の感想文より

この映画には泣かされた。彼ら高校生たちは現代の坂本龍馬だと思う。いや龍馬を越えようとする国際的龍馬である。（高知92歳）

この映画を見ながら、真の国際理解や友好の在り方についても深く考えさせられた。（高知163歳）

胸がいっぱいになりました。日本に住む私たち朝鮮人の子供たちとの自然な友好が素晴らしい。（神戸 在日コリアン女性）

このドキュメンタリーは私にとってすごく衝撃があった。こんな高校生もいるんだなんて私ももっとかくれた歴史をしらなくてはならない。現実、事実を。もっと…（東京17歳）

「渡り川」は、重いテーマを含んでいるが見終わった後、快い余韻を残すのは、なぜ？（高知54歳）

高校も家庭も地域も一つになって歴史を掘りさげ、語り前進することを教えられたように思います。（東京女性）

画面の美しさ。ゼミの方の純粋な涙。この感激をぜひ多くの方々に味わっていただきたくて筆を執りました。（高知女性）

## ご支援・申し込み方法

### ■ 郵便振替にてご入金下さい

〔添付の郵便振込用紙が無い場合は、注文項目と住所をお知らせ下さい〕

口座番号 01670-9-133375

加入者名 太平洋核被災支援センター

### ★ 問合先 太平洋核被災支援センター 山下正寿

〒788-0785 高知県宿毛市山奈町芳奈 2779-2

Tel / Fax 0880-66-1763 E-mail masatosi.sky@orange.zero.jp

DVD 「渡り川」

¥1500

送料均一 ¥200

一強制連行を追跡し、国境を越えた交流を進める高校生たち一  
 キネマ旬報記録映画ベストテン1位、国際映画祭参加90分

森康行監督、